

認定遺伝カウンセラー高次到達目標案：本要件は、認定遺伝カウンセラーが有すべき資質・知識・技能・態度を規定したものである

内容説明：

【能力要件 中項目】が、今回策定を目指している認定遺伝カウンセラーが具備すべき能力要件案を示す。到達目標からの変更部分は赤字で表記。

・【参考：現在の資格認定時の到達目標 中項目】は現在既に公表されている認定遺伝カウンセラーの資格取得時の到達目標。

到達目標では「理解できる」ととどまっている項目が、能力要件では「実践できる」・「適用できる」に変更されている。

・知識・技術について、「クライアントの個別性に合わせて」、「遺伝カウンセリングの実践や関連業務」に適用できるとしている。

区分	大項目	番号	能力要件 中項目（20251020ver）	参考：現在の資格認定時の到達目標 中項目
【知識】	a. 人類遺伝学の基本知識	1)	現代遺伝学がたどった歴史的背景を理解し、説明できる	現代遺伝学がたどった歴史的背景を理解できる
		2)	人体構造学・人体機能学の基本的知識を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	人体構造学・人体機能学の基本的知識を理解できる
		3)	細胞遺伝学の基本的知識を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	細胞遺伝学の基本的知識を理解し説明できる
		4)	分子遺伝学の基本的知識を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	分子遺伝学の基本的知識を理解し説明できる
		5)	メンデル遺伝学の基本的知識を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	メンデル遺伝学の基本的知識を理解し説明できる
		6)	非メンデル遺伝の基本的知識を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	非メンデル遺伝の基本的知識を理解し説明できる
		7)	集団遺伝学の基本的知識を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	集団遺伝学の基本的知識を理解し説明できる
	b. 代表的な疾患の臨床像、自然歴、診断法、治療法に関する基本的知識	1)	染色体異常の基本的知識を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	染色体異常の基本的知識を理解し説明できる
		2)	単一遺伝子疾患の基本的知識を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	単一遺伝子疾患の基本的知識を理解し説明できる
		3)	生殖・発生遺伝学の基本的知識を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	生殖・発生遺伝学の基本的知識を理解し説明できる
		4)	体細胞遺伝学の基本的知識を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	体細胞遺伝学の基本的知識を理解し説明できる
		5)	妊娠・胎児に関連した遺伝学の基本的知識を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	妊娠・胎児に関連した遺伝学の基本的知識を理解し説明できる
		6)	遺伝生化学の基本的知識を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	遺伝生化学の基本的知識を理解し説明できる
		7)	腫瘍遺伝学の基本的知識を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	腫瘍遺伝学の基本的知識を理解し説明できる
		8)	ゲノム情報に基づいた医療、個別化医療の基本的知識を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	ゲノム情報に基づいた医療、個別化医療の基本的知識を理解できる
			(続き)	
			b. 代表的な疾患の臨床像、自然歴、診断法、治療法に関する基本的知識	

認定遺伝カウンセラー高次到達目標案：本要件は、認定遺伝カウンセラーが有すべき資質・知識・技能・態度を規定したものである

内容説明：

【能力要件 中項目】が、今回策定を目指している認定遺伝カウンセラーが具備すべき能力要件案を示す。到達目標からの変更部分は**赤字**で表記。

・【参考：現在の資格認定時の到達目標 中項目】は現在既に公表されている認定遺伝カウンセラーの資格取得時の到達目標。

到達目標では「理解できる」ととどまっている項目が、能力要件では「実践できる」・「適用できる」に変更されている。

・知識・技術について、「クライアントの個別性に合わせて」、「遺伝カウンセリングの実践や関連業務」に適用できるとしている。

区分	大項目	番号	能力要件 中項目（20251020ver）	参考：現在の資格認定時の到達目標 中項目
	c. 遺伝学的検査とその適用に関する知識	1)	単一遺伝子ならびに網羅的遺伝学的検査結果の医療上の意味を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	単一遺伝子ならびに網羅的遺伝学的検査結果の医療上の意味を理解することができる
		2)	スクリーニング、診断、発症前の単一遺伝子ならびに網羅的遺伝学的検査結果の利用可能性、分析的妥当性、臨床的妥当性と臨床的有用性を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	スクリーニング、診断、発症前の単一遺伝子ならびに網羅的遺伝学的検査結果の利用可能性、分析的妥当性、臨床的妥当性と臨床的有用性を理解できる
		3)	クライアントの検査前の状況に適した遺伝学的検査と検査機関について調べ、検査前の状況に応じて、検査や機関を選定し、 連携体制を築くことができる	クライアントの検査前の状況に適した遺伝学的検査と検査機関について調べ、検討することができる
		4)	遺伝学的／ゲノム検査がもつ可能性のある利益とリスク、限界について理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	遺伝学的／ゲノム検査がもつ可能性のある利益とリスク、限界と費用を確認し、検討することができる
		5)	検査結果にもとづいて、追加の検査や適切な紹介先を 調整できる	検査結果にもとづいて、追加の検査や適切な紹介先を調べることができる
		6)	インフォームド・コンセントの過程、結果開示、倫理審査、指針と臨床での意思決定の観点から、遺伝子とゲノム、臨床検査と研究における検査に関連した事柄を 関連職種とともに検討できる	インフォームド・コンセントの過程、結果開示、倫理審査、指針と臨床での意思決定の観点から、遺伝子とゲノム、臨床検査と研究における検査に関連した検討すべき事柄を認識し、識別することができる
	d. 遺伝カウンセリングの歴史と基礎的知識	1)	遺伝カウンセリングの歴史を踏まえ、 将来の課題について検討できる	遺伝カウンセリングの歴史について説明することができる
		2)	遺伝カウンセリングの定義とプロセスについて理解し説明することができる	遺伝カウンセリングの定義とプロセスについて理解し説明することができる
		3)	認定遺伝カウンセラーとしてクライアントを支援するための心理学的理論に基づき心理的支援を 実践できる	認定遺伝カウンセラーとしてクライアントを支援するための心理学的理論について理解し説明することができる
	e. 基本的コミュニケーション技術	1)	さまざまな基本的なカウンセリング技術を理解し、 遺伝カウンセリングの実践や関連業務に適用できる	さまざまな基本的なカウンセリング技術を理解し、使用することができる
		2)	積極的傾聴と共感的態度を 実践し 、言葉の侵襲性に配慮しながらクライアントとの信頼関係を築くことができる	積極的傾聴の態度、共感を示し、自分自身が使用する言葉の侵襲性に配慮しながら、クライアントとの信頼関係を築くことができる
		3)	クライアントの理解、記憶、認識、意思決定に影響を与えている複雑な感情的な反応を言語化し、 評価し、対処することができる	クライアントの理解、記憶、認識、意思決定に影響を与えている感情的な反応を認識し、言語化することができる
		4)	言語的および非言語的に表現されるクライアントの反応を 的確に受け止め、個別化支援へと展開できる	言語的および非言語的に表現されるクライアントの反応を認識し、言語化することができる
		5)	遺伝カウンセリングの相互作用に影響を与えうる転移や逆転移など、クライアントとカウンセラーの関係における力学を言語化し、 遺伝カウンセリング戦略の提案に活かすことができる	遺伝カウンセリングの相互作用に影響を与えうる転移や逆転移など、クライアントとカウンセラーの関係における力学を認識し、言語化することができる
	f. 様々な分野の専門職との良好な人間関係維持と連携	1)	多職種連携の中で、クライアントや職場職員と自身との関係性について自身の専門性と職業上の境界を認識し、相手を尊重できる	クライアントや職場職員と自身との関係性について、職業上の境界を認識し、相手を尊重することができる
		2)	医療従事者をはじめとする様々な分野の専門職と 協調関係を築きつつ、問題解決体制を構築できる	医療従事者をはじめとする様々な分野の専門職と良好な人間関係を築くことができる
		3)	クライアントが受けている医療を理解し、クライアントと主治医の関係性に配慮した行動を実践できる	クライアントが受けている医療を理解し、クライアントと主治医の関係性に配慮した行動を実践できる
		4)	認定遺伝カウンセラーによる遺伝カウンセリング実践範囲を説明・啓発し、診断治療行為を行わないことを自覚し 行動できる	認定遺伝カウンセラーによる遺伝カウンセリング実践範囲を認識し、診断治療行為を行わないことを自覚し対応できる
		5)	クライアントに医療・保健・福祉・心理支援を提供する各専門職との連携体制を 構築できる	クライアントに医療・保健・福祉・心理支援を提供する各専門職との連携体制の重要性を理解している
		6)	地域の適切かつ公平な遺伝カウンセリング提供体制を促進させるために、他施設や他職種との相互交流体制構築や啓発活動を 実践できる	地域の適切かつ公平な遺伝カウンセリング提供体制を促進させるために、他施設や他職種との相互交流を行う重要性を理解している
	g. 遺伝カウンセリングに関わる心理学的実践技術	1)	クライアントの価値観に合った意思決定を積極的に促進することの重要性について理解し 実践できる	クライアントの価値観に合った意思決定を積極的に促進することの重要性について理解できる
		2)	クライアントの自律性を促進する要因を把握することができる	クライアントの自律性を促進する要因を把握することができる
		3)	アンティシパトリーガイダンスや、リスクや選択肢に対するクライアントの反応を深く掘り下げるなどの、高度な遺伝カウンセリングスキルを 活用できる	アンティシパトリーガイダンスや、リスクや選択肢に対するクライアントの反応を深く掘り下げるなどの、高度な遺伝カウンセリングスキルを利用することができる
		4)	クライアントの心理社会的ニーズに沿った 支援ができる	クライアントの心理社会的ニーズを評価することができる

認定遺伝カウンセラー高次到達目標案：本要件は、認定遺伝カウンセラーが有すべき資質・知識・技能・態度を規定したものである

内容説明：

【能力要件 中項目】が、今回策定を目指している認定遺伝カウンセラーが具備すべき能力要件案を示す。到達目標からの変更部分は**赤字**で表記。

・【参考：現在の資格認定時の到達目標 中項目】は現在既に公表されている認定遺伝カウンセラーの資格取得時の到達目標。

到達目標では「理解できる」ととどまっている項目が、能力要件では「実践できる」・「適用できる」に変更されている。

・知識・技術について、「クライアントの個別性に合わせて」、「遺伝カウンセリングの実践や関連業務」に適用できるとしている。

区分	大項目	番号	能力要件 中項目（20251020ver）	参考：現在の資格認定時の到達目標 中項目
【技術】	（続き） g. 遺伝カウンセリングに関わる 心理学的実践技術	5)	エビデンスに基づくカウンセリングモデルを 実践できる	エビデンスに基づくカウンセリングモデルを理解し説明することができる
		6)	クライアントへの対応場面（遺伝カウンセリングを含む）の中で生じる心理社会的な課題に気づき、対処するための適切なフォローアッププラン（必要に応じて、心理支援職への紹介）を 実践できる	クライアントへの対応場面（遺伝カウンセリングを含む）の中で生じる心理社会的な課題に気づき、対処するための適切なフォローアッププラン（必要に応じて、心理支援職への紹介）を検討することができる
		7)	遺伝カウンセリングの際に提示される医学的推奨事項には、遺伝学的状況に応じて非指示的から指示的への幅があることを理解し、 実践できる	遺伝カウンセリングの際に提示される医学的推奨事項には、遺伝学的状況に応じて非指示的から指示的への幅があることを理解できる
		8)	クライアントの感情、個人や家族の経験、信念、行動、価値観、対処メカニズム、適応能力を 評価し、個別の支援に適用することができる	クライアントの感情、個人や家族の経験、信念、行動、価値観、対処メカニズム、適応能力を引き出すことができる
	h. クライアントの心理的・社会的 ・倫理的・法的課題（ELSI）	1)	遺伝カウンセリングに関連する、クライアントの意思決定や診療方針に影響を及ぼす可能性のある、心理的・社会的・倫理的・法的課題に基づいた 個別の支援を実践できる	遺伝カウンセリングに関連する、クライアントの意思決定や診療方針に影響を及ぼす可能性のある、心理的・社会的・倫理的・法的課題を検討し特定できる
		2)	遺伝子／ゲノム情報の保護および利活用に関して、クライアントの懸念と 公共的利益とのバランスに基づいた評価ができる	遺伝子／ゲノム情報の保護および利活用に関するクライアントの懸念を理解できる
	i. クライアントが最良の遺伝医療を受けるための調整および参画	1)	各診療科や各医療機関とのやりとりを通してクライアントが適切な医療を受けるための 連絡調整を実践できる	各診療科や各医療機関とのやりとりを通してクライアントが適切な医療を受けるための、連絡調整の意義について理解できる
		2)	事前準備とフォローアップを含め、症例に対するマネージメント計画作成を 実践できる	事前準備とフォローアップを含め、症例に対するマネージメント計画作成に参画することができる
		3)	遺伝カウンセリングを知ったきっかけ、紹介された理由や連絡をした理由に関して、クライアントの期待、捉え方、知識、懸念を適切に 評価し、遺伝カウンセリングに役立てることができる	遺伝カウンセリングを知ったきっかけ、紹介された理由や連絡をした理由に関して、クライアントの期待、捉え方、知識、懸念を引き出すことができる
		4)	遺伝カウンセリングにおいて新たな関心事が生じた際には、遺伝カウンセリングのアジェンダを 継続的に適宜修正できる	遺伝カウンセリングにおいて新たな関心事が生じた際には、遺伝カウンセリングのアジェンダを継続的に適宜修正することの必要性について理解できる
		5)	クライアントの文化的な背景に配慮し、遺伝カウンセリングのアジェンダを 立案・調整できる	クライアントの文化的な背景に配慮し、遺伝カウンセリングのアジェンダを立案・調整することの重要性を理解できる
		6)	マネージメントや推奨サーベイランスの変更に応じてマネージメント計画を 修正できる	マネージメントや推奨サーベイランスの変更に応じてマネージメント計画が修正されることを理解できる
		7)	遺伝カウンセリングにおける情報を関係者が理解できるように、専門家・機関の指針や基準にしたがって明確かつ簡潔に記録できる	遺伝カウンセリングにおける情報を関係者が理解できるように、専門家・機関の指針や基準にしたがって明確かつ簡潔に記録することができる
		8)	遺伝カウンセリングの実践に関連する医療制度について理解し、 適用できる	遺伝カウンセリングの実践に関連する医療制度を理解することができる
		9)	遺伝カウンセリングの実践で生じる倫理的・道徳的ジレンマを生命倫理原則に基づき分析し、 クライアントの支援に適用できる	遺伝カウンセリングの実践で生じる倫理的・道徳的ジレンマを生命倫理原則に基づき分析できる
		10)	クライアントに研究参加の選択肢がある場合には、適切な個人情報保護の下、個人の適格基準や施設基準にしたがって 紹介できる	クライアントに研究参加の選択肢がある場合には、適切な個人情報保護の下、個人の適格基準や施設基準にしたがって紹介することを理解できる
	j. 遺伝医療の必要性に応じた家系情報の収集と家系図の作成	1)	家系図の標準記載法を理解し、適切に用いることができる	家系図の標準記載法を理解し、適切に用いることができる
		2)	家系内での疾患情報や家族の状況について把握するために、傾聴技法を利用できる	家系内での疾患情報や家族の状況について把握するために、傾聴技法を利用することができる
		3)	家系情報を適切に引き出し、整理できる	家系情報を適切に引き出し、整理することができる
		4)	遺伝学的内容もしくは保因者状態の可能性を理解し、まとめることができる	遺伝学的内容もしくは保因者状態の可能性を理解し、まとめることができる
		5)	家系内の遺伝学的検査結果を聴取し、適切なリスク算定に利用できる	家系内の遺伝学的検査結果を聴取し、適切なリスク算定に利用することができる
		6)	家系の遺伝学的状態に関連する可能性がある環境や生活習慣についての情報を確認し、適切なリスク算定に利用できる	家系の遺伝学的状態に関連する可能性がある環境や生活習慣についての情報を確認し、適切なリスク算定に利用することができる
	k. 正確かつ最新の遺伝医学的情報の収集	1)	文献の検索とレビューを 実行し、個々のクライアントに必要な情報を適切にまとめることができる	文献の検索とレビューを計画し実行できる

認定遺伝カウンセラー高次到達目標案：本要件は、認定遺伝カウンセラーが有すべき資質・知識・技能・態度を規定したものである

内容説明：

【能力要件 中項目】が、今回策定を目指している認定遺伝カウンセラーが具備すべき能力要件案を示す。到達目標からの変更部分は**赤字**で表記。

・【参考：現在の資格認定時の到達目標 中項目】は現在既に公表されている認定遺伝カウンセラーの資格取得時の到達目標。

到達目標では「理解できる」ととどまっている項目が、能力要件では「実践できる」・「適用できる」に変更されている。

・知識・技術について、「クライアントの個別性に合わせて」、「遺伝カウンセリングの実践や関連業務」に適用できるとしている。

区分	大項目	番号	能力要件 中項目（20251020ver）	参考：現在の資格認定時の到達目標 中項目
		2)	研究方法論と統計解析に関連した知識を 応用 し、論文を評価し、 結論を導くことができる	研究方法論と統計解析に関連した知識を適用し、論文を評価し、適切な結論を得ることができる
		3)	知識とデータには限界やギャップがあることを認識した上で、医学・科学文献をエビデンスに基づく医療に組み込むことができる	知識とデータには限界やギャップがあることを認識した上で、医学・科学文献をエビデンスに基づく医療に組み込むことができる
	l. クライアントを取り巻く情報の整理と、相談支援および教育支援	1)	国や各地方自治体による医療制度や社会的資源に関する正確で幅広い最新情報を収集でき、 クライアントに合わせた情報提供ができる	国や各地方自治体による医療制度や社会的資源に関する正確で幅広い最新情報を収集でき、クライアントに合わせた整理ができる
		2)	クライアントの理解力、モチベーション、情緒的状態、宗教的・文化的信念等から、学習プロセスに影響を与える要因の評価に 基づいた支援ができる	クライアントの理解力、モチベーション、情緒的状態、宗教的・文化的信念等から、学習プロセスに影響を与える要因を評価できる
		3)	クライアントの状態、ニーズ、ライフスタイル、社会経済的背景、年齢、ジェンダー、宗教的・文化的背景等から、遺伝カウンセリングに影響を与える要因の評価に 基づいた支援ができる	クライアントの状態、ニーズ、ライフスタイル、社会経済的背景、年齢、ジェンダー、宗教的・文化的背景等から、遺伝カウンセリングに影響を与える要因を評価できる
		4)	配布資料、視聴資料、その他学習効果を高める様々なツールを工夫して活用する等、状況に合わせた最適なコミュニケーション手段で 対応できる	配布資料、視聴資料、その他学習効果を高める様々なツールを工夫して活用する等、状況に合わせた最適なコミュニケーション手段で対応できる
		5)	リテラシーの低いクライアントが直面する課題を特定し、リテラシーの負担を軽減する情報提供を 適切に実践できる	リテラシーの低いクライアントが直面する課題を特定し、リテラシーの負担を軽減する情報提供方法を工夫できる
		6)	クライアントが状況を理解し、適応し、意思決定するために、分かりやすく遺伝子等に関する情報提供ができる	クライアントが状況を理解し、適応し、意思決定するために、分かりやすく遺伝子等に関する情報提供ができる
		7)	様々な状況をもつ人々の多様性を理解し、偏りのない情報提供ができる	様々な状況をもつ人々の多様性を理解し、偏りのない情報提供ができる
		8)	リスクコミュニケーションを理解し実践することで、クライアントの理解を最大限に深めることができる	リスクコミュニケーションを理解し実践することで、クライアントの理解を最大限に深めることができる
	m. 様々な遺伝カウンセリング提供方法に合わせたコミュニケーションスキルと課題	1)	来談者のニーズに応えるために、心理社会的な影響を考慮し、様々な遺伝カウンセリング提供方法に合わせたコミュニケーションについて 実践できる	来談者のニーズに応えるために、心理社会的な影響を考慮し、様々な遺伝カウンセリング提供方法に合わせたコミュニケーションについて理解できる
		2)	様々な遺伝カウンセリング提供方法の長所と短所、限界を理解し 行動できる	様々な遺伝カウンセリング提供方法の長所と短所、限界を理解することができる
		3)	様々な遺伝カウンセリング提供方法に合わせた言語的・非言語的コミュニケーションができる	様々な遺伝カウンセリング提供方法に合わせた言語的・非言語的コミュニケーションができる
	n. 医療者や一般市民の需要、特性、状況に合わせた教育支援および啓発活動	1)	対象者の需要、特性、状況に基づいた教育・学習目標を設定し、教育アプローチを開発できる	対象者の需要、特性、状況に基づいた教育・学習目標を設定し、教育アプローチを開発できる
		2)	対象者の理解や選択に効果的な教育資料を作成できる	対象者の理解や選択に効果的な教育資料を作成できる
		3)	遺伝医療部門との連携や受診について、アクセスしやすくするための啓発活動を 主導できる	遺伝医療部門との連携や受診について、アクセスしやすくするための啓発活動ができる
		4)	総合マネージメントの質向上のために、遺伝医療と関わりの少ない医療者に向けた教育支援を 実践できる	総合マネージメントの質向上のために、遺伝医療と関わりの少ない医療者に向けた教育支援の重要性を理解している
		5)	一般市民の健康増進および地域医療のために、遺伝子／ゲノム情報の適切な取扱いや、適切な医療体制を促進させる啓発活動を 実践できる	一般市民の健康増進および地域医療のために、遺伝子／ゲノム情報の適切な取扱いや、適切な医療体制を促進させる啓発活動の重要性を理解している
		6)	健康増進事業や研究へ参加したり、参加を辞退したりする一般市民やコミュニティが不利益を被らないように サポートできる	健康増進事業や研究へ参加したり、参加を辞退したりする一般市民やコミュニティが不利益を被らないようにサポートする意義を説明できる
		7)	自身の教育・啓発活動を客観的に評価し、今後の改善に 活かすことができる	自身の教育・啓発活動を客観的に評価し、今後の改善に活かす意義を説明できる
	o. 遺伝カウンセリング研究プロセス	1)	研究成果を評価するために、研究方法論と研究デザインの適切性の 評価と研究結果に対する批判的な見解を提示できる	研究成果を評価するために、研究方法論と研究デザインの知識を適用できる
		2)	利用可能な研究関連リソースを見極めることができる	利用可能な研究関連リソースを見極めることができる
		3)	研究対象者に対して、研究の内容について分かりやすく偏りのない情報提供ができる	研究対象者に対して、研究の内容について分かりやすく偏りのない情報提供ができる
		4)	倫理的な研究の遂行について実践できる	倫理的な研究の遂行について実践できる
	p. 我が国の社会保障制度・医療制度、関連法規・倫理に関する知識の習得と遵守	1)	医療情報の重要性を理解し、適切に管理・活用できる	医療情報の重要性を理解し、適切に管理・活用することができる
		2)	社会保障制度・医療制度の基礎および社会的資源についてクライアントに 適用できる	社会保障制度・医療制度の基礎および社会的資源について説明できる
		3)	利益相反（COI）をもたらす可能性のある状況に適切に 対応できる	利益相反（COI）をもたらす可能性のある状況を説明することができる

認定遺伝カウンセラー高次到達目標案：本要件は、認定遺伝カウンセラーが有すべき資質・知識・技能・態度を規定したものである

内容説明：

【能力要件 中項目】が、今回策定を目指している認定遺伝カウンセラーが具備すべき能力要件案を示す。到達目標からの変更部分は赤字で表記。

・【参考：現在の資格認定時の到達目標 中項目】は現在既に公表されている認定遺伝カウンセラーの資格取得時の到達目標。

到達目標では「理解できる」ととどまっている項目が、能力要件では「実践できる」・「適用できる」に変更されている。

・知識・技術について、「クライアントの個性に合わせで」、「遺伝カウンセリングの実践や関連業務」に適用できるとしている。

区分	大項目	番号	能力要件 中項目（20251020ver）	参考：現在の資格認定時の到達目標 中項目
【態度】	q. 認定遺伝カウンセラーとして、自身の心身および価値観やバイアスに対する内省的な態度の習得	4)	法律ならびに関連組織の倫理規定等を遵守した業務を行うことができる	法律ならびに関連組織の倫理規定等を遵守した業務を行うことができる
		1)	専門職としての態度や行動に影響を与える、自身の身体的・精神的な健康に責任を持つことができる	専門職としての態度や行動に影響を与える、自身の身体的・精神的な健康に責任を持つことができる
		2)	遺伝カウンセリングに関連する自身の価値観や先入観を認識した上で、遺伝カウンセリングや関連業務を実践できる	遺伝カウンセリングに関連する自身の価値観や先入観を認識することができる
		3)	クライアントに焦点を当てた遺伝カウンセリング提供において、認定遺伝カウンセラーの個人的な考えや先入観が与える影響を説明できる	クライアントに焦点を当てた遺伝カウンセリング提供において、認定遺伝カウンセラーの個人的な考えや先入観が与える影響を理解できる
		4)	クライアント、家族、地域社会と遺伝カウンセリング専門職との間に潜在的に存在する価値観の違いについて評価し、個別のケースごとに適切な対応ができる	クライアント、家族、地域社会と遺伝カウンセリング専門職との間に、潜在的に立場による価値観の違いがあることを認識することができる
	r. エビデンスに基づいた遺伝カウンセリングの実践に必要な生涯学習の重要性の理解と自己学習手段の習得	5)	認定遺伝カウンセラーとしての発言、自己開示、見解が、クライアントの最善の利益になるように、専門職として逸脱せず行動できる	認定遺伝カウンセラーとしての発言、自己開示、見解が、クライアントの最善の利益になるように、専門職として逸脱せず行動する意義を説明できる
		1)	社会の一員・医療チームの一員として責任を持った態度、接遇ができる	社会の一員・医療チームの一員として責任を持った態度、接遇ができる
		2)	遺伝カウンセリングの準備と実践において、エビデンスに基づいた学術的アプローチを実践できる	遺伝カウンセリングの準備と実践において、エビデンスに基づいた学術的アプローチを説明できる
		3)	研修会への参加・学会活動などを通じて、専門職として自発的に常に最新の遺伝医学情報にアクセスし、生涯学習を継続できる	研修会への参加・学会活動などを通じて、専門職として自発的に常に最新の遺伝医学情報にアクセスし、生涯学習をすることの意義を理解できる
		4)	遺伝カウンセリングの実践や関連業務において、自身の限界と能力を認識し、責任を持って行動できる	遺伝カウンセリングの実践において、自身の限界と能力を認識することができる
		5)	自身の態度や行動への批評に対して、フィードバックを求めることができる	自身の態度や行動への批評に対して、フィードバックを求めることができる
		6)	スーパービジョンやメンターシップを適切な機会に提供できる	スーパービジョンやメンターシップのための適切な機会について説明できる
		7)	遺伝子関連の専門組織へ参加やリーダーシップを発揮する機会に参画できる	遺伝子関連の専門組織へ参加やリーダーシップを発揮する機会について説明できる
	s. 遺伝カウンセリング研修者に対する教育・人材育成に関する役割の理解	1)	スーパービジョンを受けた経験を積極的に振り返ることができる	スーパービジョンを受けた経験を積極的に振り返ることができる
		2)	スーパービジョンの実践もしくは後進の育成に取り組むことができる	スーパービジョンの意義を説明できる
		3)		スーパーバイズによる人材育成の意義を理解できる